国立音楽大学創立 100 周年記念事業

声楽公開レッスン
講師：ウィリアム・マッテウッツィ教授

2026 年 10 月 4 日（日）14:00 開演（13:30 開場）
会場：新 1 号館 142 オーケストラスタジオ　入場無料
通訳・ピアノ：高島 理佐

～～プログラム～～

1. 小嶋 凛々（学部 4 年／ソプラノ）Riri KOJIMA
《Giulio Cesare in Egitto》“V'adoro pupille” …… Georg Friedrich Händel（1685-1759）
歌劇《エジプトのジュリオ・チェーザレ》より “焦がれております、優しい眼差しよ” G. F. ヘンデル

2. 平川 陽向（学部 4 年／カウンターテノール）Hinata HIRAKAWA
《Il trionfo del tempo e del disinganno》“Lascia la spina” …… Georg Friedrich Händel（1685-1759）
オラトリオ《時と悟りの勝利》より “棘はそのままに” G. F. ヘンデル

3. 吉田 歩夢（修士 1 年／テノール）Ayumu YOSHIDA
《Tamerlano》“Forte e lieto a morte andrei” …… Georg Friedrich Händel（1685-1759）
歌劇《タメルラーノ》より “勇ましく、喜んで死に向かうだろう” G. F. ヘンデル

4. 佐々木 悠人（修士 1 年／テノール）Haruto SASAKI
《L'arlesiana》“Il lamento di Federico” …… Francesco Cilea（1866-1950）
歌劇《アルルの女》より “フェデリーコの嘆き” F. チレア

～～講師プロフィール～～

ウィリアム・マッテウッツィ（William Matteuzzi）

イタリア・ボローニャに生まれる。22歳の時に、カルーソ・コンクールで優勝後「マノン」(マスネ)のデ・グリューを歌いオペラデビューを飾る。20代にして早くもオペラの殿堂・ミラノスカラ座に登場し、「イドメネオ」(モーツァルト)「夢遊病の女」(ベッリーニ)「なりゆき泥棒」(ロッシーニ)等に出演し大成功を収める。その後も活躍の場を海外に広げ、ウィーン国立歌劇場での「セビリアの理髪師」「アルジェのイタリア女」「ランスへの旅」等で大成功を収めた。1986年から、毎年ロッシーニの生地ペーザロで行われている「ロッシーニ・オペラフェスティバル」に出演。ほぼ毎年、シーズンの主要演目の主役テノールを歌って絶賛を博し、短期間で同フェスティバルでの不動の地位を築きあげ、世界的に見てもロッシーニのオペラになくてはならない存在となった。特筆すべきは彼の驚異的な高音の声域で、3点Fすらファルセットでは無く胸声でしかも自然体で歌う事ができることから、《King of High F》と呼ばれる事となった。マッテウッツィ氏はロッシーニ歌手としての印象が強いが、音楽様式と特質の明確な把握・それを完璧に具体化し再現する実力を持ち、バロック音楽から近代作曲家の作品までレパートリーが幅広く、フランス音楽の分野にも造詣が深い。2016年にティート・スキーパ賞を受賞。またキジアーナ音楽院の講師を務める。同年、世界中の子守唄を集めたCD《La Luna Prigioniera》をリリース。2015年9月に国立音楽大学のマスタークラスに講師として招聘され、その後定期的に来日している。

※ 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。
※ やむを得ない事情により出演者や内容等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

主催／国立音楽大学
お問合せ：国立音楽大学演奏芸術センター 042-535-9535　https://www.kunitachi.ac.jp/